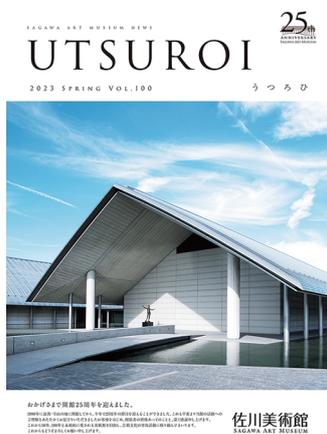
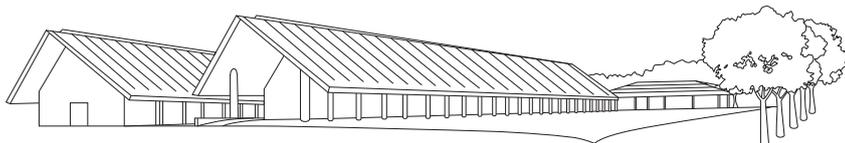


# うつろひ VOL.100

## リリースのおしらせ



佐川美術館友の会会員の方を対象に年4回季刊誌を発行しており、  
 展覧会のみどころや耳より情報をお知らせしています。  
 2023年は開館25年のメモリアルイヤー！  
 『うつろひ』もなんと100号を迎えました。  
 今号は100号記念特大号として、  
 16Pのボリュームで耳より情報をお届けします。

## 目次

【25周年企画】 数字で見る佐川美術館	PICK UP	1-2
【25周年企画】 学芸員が振り返る展覧会		3-4
企画展 山下清展みどころ紹介		5-6
コレクション展 佐藤忠良 造形の探求	PICK UP	7-8
コレクション展 平山郁夫 旅のはじまり		9
コレクション展 樂直入 守破離の彼方		10
フジさんが行く！ SHIGART		11
ガクゲイのココだけの話		12
【告知】 茶室見学/会員限定イベント		13
【告知】 ミュージアムコンサート		14
深#建築LABO/開館日カレンダー		裏表紙

年会費 3,000円  
でオトク！

友の会会員  
募集中



詳しくは  
コチラ

友の会会員の方には、季刊誌をご自宅までお届けします。  
 その他にも特典がいろいろ！  
 詳しくは美術館公式HP内、  
 友の会ページをご覧ください。

次のページで  
ちょっとだけ紹介！

Join the Friends  
of the Museum

SAGAWA ART MUSEUM NEWS

25<sup>th</sup>  
ANNIVERSARY  
SAGAWA ART MUSEUM

# UTSUROI

2023 SPRING VOL.100

うつろひ



おかげさまで開館25周年を迎えました。

1998年に滋賀・守山の地に開館してから、今年で25周年の節目を迎えることができました。これも平素より当館の活動へのご理解とあたたかくお見守りいただきましたお客様をはじめ、関係者の皆様あってのことと、深く感謝申し上げます。これから50年、100年と永続的に愛される美術館を目指し、芸術文化の普及活動に取り組んでまいります。これからもどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

佐川美術館  
SAGAWA ART MUSEUM

# 2,820冊

## 展覧会 図録

売上数歴代1位  
『広重二大街道浮世絵展』

中山道と東海道をテーマにした本展の図録は、解説も充実し、読み応えがある内容でした。和綴じ風のデザインも人気の理由。

# 1,800歩

## 館内 1周

するのにかかる歩数 約17分  
作品をじっくり鑑賞するのに所要時間は約1時間半。アートを見がてらエクササイズも兼ねることができて一石二鳥かも。 ※個人差があります

# 64万

2ℓ  
ペットボトル

# 7,000本分

## 美術館の 水庭総水量

水を抜くのに3日、張るのに3日かかります。水が張っていない光景は美術館職員でさえなかなか見られないレアな光景。



今後伝えていきたい  
アートの数

ジャンル問わずどんなものでも、自分の心に触れたものはすべてアートです。私たちはアートの可能性を皆さまに伝え続けます。

# 15,941点

※第14回までの実数

## 絵画コンクール

総応募数 今年で15回目を迎える当コンクールでは、未来の  
アート界を担う小さな画伯たちを応援しています。

# 721点

## コレクション

所蔵作品の数  
平山郁夫作品328点、佐藤忠良作品203点、樂直入作品190点のコレクションは毎年増え続けています。

### グラフで見る入館者数

(総入館者数と子どもの数)

■ 総入館者数(人) ■ 子ども(中学生以下)の入館者数(人)

※統計は年度毎とし、4/1～翌年3/31までを1年とする  
※子どもの人数は2008年以降統計開始



総入館者数 2,988,140人

# 数字で見る 佐川美術館

## 25年のあゆみ

開館から25年という月日を重ねるなか、佐川美術館は日々発展し続け今日を迎えました。ここでは数字に着目し、

佐川美術館の現在のプロフィールをご紹介します。へーと驚く(モノもあるかも!?)佐川美術館のリアルをお届けします。

# 11:45

## 楽館ロビーの 綺麗な時間

晴れた日の正午前。水面のゆらぎがロビー壁面に映りこむ光景はとても幻想的で、季節によっても見え方が違います。

# 141,594人

## きつずみゅーじあむ入館者数1位 デザインあ展 in SHIGA

身近なものすべてにデザインの力が働いていることを体験型展示で紹介。過去最多の集客となり、守山の冬が熱くなりました。2位は53,476人『魔法の美術館II』/3位は51,547人『アリスインサイエンスワールド』

# 86,704人

## 展覧会入館者数1位 田中一村展

NHKの番組で紹介されるや否や全国から問い合わせが殺到。駅からの臨時バスを運行するほどの人気ぶりでした。2位は66,048人『木梨憲武展 Timing-瞬間の光り-』/3位は65,074人『大恐竜展 よみがえる世界の恐竜たち』

最大 H 171.2×  
W 545.0cm

## コレクションの 最大作品

《故城下村民帰牧図》  
平山郁夫

第87回院展の出品作。6枚のパネルをつなぎ合わせて制作された絵画です。

最小 H 4.3×  
Φ 5.0cm

## コレクションの 最小作品

《緑軸竹輪蓋置》  
15代吉左衛門(樂直入)

茶会でも使用されることがあります。

# 磨き上げた「自然なポーズ」

突然カメラを向けられた時、どんなポーズをとろうか戸惑った経験は無いでしょうか？ シャッターに合わせて様々なポーズを試しても、ぎこちなさを感じさせない自然なポーズをとるのは案外難しいものです。

佐藤忠良も、人物像の制作にあたり自然なポーズを求めて細かな調整を繰り返しました。佐藤は「作品が表す基本的な力の軸や方向に対して、反れたり違ったりする方向が見られると、その作品は微妙な均衡を保って美しく感じられる」という「作用と反作用」の概念を念頭に置き、指1本の向きにまでこだわり抜きました。

佐藤の作品は、その姿があまりにも自然であるため、注意深く観察しないと絶妙なバランスにより成立していることを見逃してしまいかもかもしれません。本展では、佐藤が自らの制作について語った言葉や素描、エスキース※を併せて紹介し、作品が出来上がるまでの「かたち」の変遷に着目することで、均衡から成立する造形美に迫ります。

※エスキース：素描、下絵。素案、概要を意味する仏語。ブロンズ像においては、完成形の前に準備段階として制作する小さな像を意味する。

Pick Up

## 表現の幅を広げる彫刻家のマストツール

ブロンズ像は、粘土原型から石膏で型を取り、そこに溶かしたブロンズを流し込んで制作します。粘土原型を作る際には、粘土を切ったり削ったりするためにヘラを使用します。彫刻家にとってヘラは制作に欠かせない道具で、作品の大きさや部分に合わせて複数のヘラを使い分けます。ここでは、一般的な彫塑用のヘラ2種類の使用例を紹介します。



ナイフ状のヘラ。ヘラの先を立てて使うと線状の溝ができ、目鼻の位置取りやレリーフの下描きなど、多様な場面で使用できます。



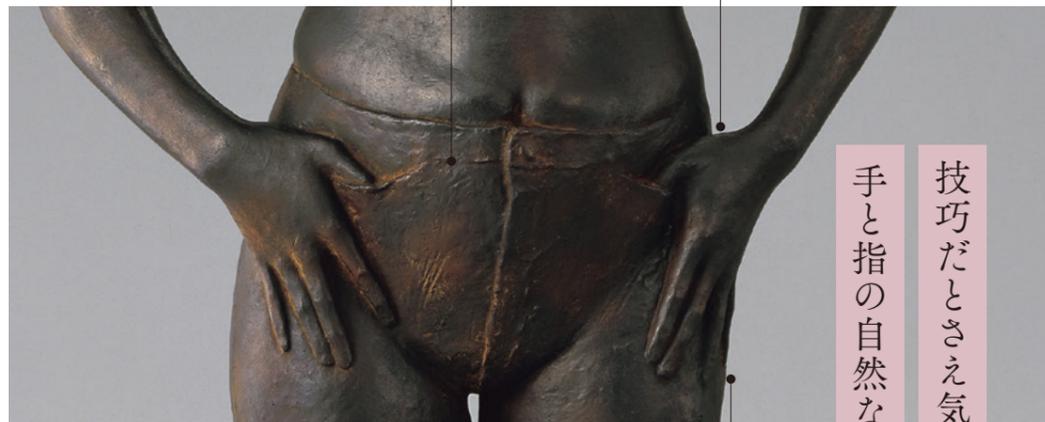
櫛目の付いたヘラ。横に滑らせると等間隔に溝ができます。佐藤の作品では、頭像の髪などに類似したヘラを使用した跡が見られます。



指関節のシワや爪は単純化されています。佐藤は、型取りしたようにそっくり写すのではなく、部分を見極め単純化してこそ良作ができると語りました。

ヘラで削った跡が見られます。佐藤は塑像※を作る際、手だけでなくヘラなどの道具を使用しました。ヘラについては次頁で詳しく説明します。

※塑像：粘土などを肉付けして造った像のことで、ブロンズ像の原型として造られる。



## 技巧だとさえ気付かせない手と指の自然な表現

左右の手で指の開き方に変化を付けており、指1本の向きまで考え抜く作家のこだわりを見て取ることができます。

《ポケット》(部分) 1984年

Information

佐藤忠良  
造形の追求

会期：4月8日(土)～  
7月2日(日)



《ポケット》  
1984年

## 眉間に加えた一本筋のごとく

## 表現を深化させる

## 粘土の足し引き



《記録をつかった男の顔》1978年

元プロ野球選手の王貞治氏をモデルに制作した作品。眉間から生え際までに、うっすらと糸のように表された起伏は実際のモデルには無かったようですが、「意志が苦しみのように表れず、知的に見えれば」との思いから佐藤が付け加えたものです。

ジーンズを履いた女性の後ろ姿を見て、佐藤が惹かれたという木綿特有のシワの具合。会場で様々な角度から鑑賞してみてください。

《帽子・夏》1972年



モデルの肩は実作より張っていて帽子の線と平行でしたが、詰まっただけに見えるため肩を落として、力の向きが下に流れるように変形させています。

佐藤は、写実※的な表現で彫刻を制作しましたが、写実と言っても単にあるがままを写すのではなく、粘土を足したり削ったりして全体の均衡を追求しました。《帽子・夏》は、佐藤の弟子である彫刻家・笹戸千津子が被っていた帽子のつぶれたフォルムに惹かれ、彼女をモデルに制作した作品です。はじめは裾の広がったパンタロンを履いてい

人物像において、佐藤がこだわりをもっていた一つが、手や指先の自然な表現でした。佐藤は手の表現について、次のように語っています。

彫刻の手がふつう以上に目立つと、手がおしゃべりをしたり踊ったりするなどと言いますが、ちょっとしたことでもどこかに作者の野心があるし、とたんに像の手がおしゃべりをし始めるし、甚だしい場合には踊りだすということが起こります。手や指先を自然に表現することは、なんでもないようであり、それくらいむずかしいですね。

右図の《ポケット》でも、制作の準備段階における素描には、手の周辺に何度も書き直した跡が残っています。また、佐藤の手の表現に対するこだわりは、モデルと同じポーズをとってみることで実感できます。《ポケット》のポーズを真似てみると、多くの方は右手と左手の指が左右対称に開いた形になるのではないのでしょうか。しかし本作では、右手は中指と薬指を閉じ、左手は中指と人差し指を閉じています。無意識にこのポーズを作ることは難しく、造形を追求した末にこのポーズに至ったことが推測できます。

ましたが、作品の焦点が帽子とパンタロンの両方に分散してしまつたため、裾を切つて踵を上げるポーズを採用しました。帽子の下がった形に対して、踵を上げて反発する動きを加えることで「作用と反作用」が効いた造形に仕上がっています。

※写実：現実的主题をありのままに描写する、あるいは対象を細部まで正確に描写する手法。